

学校に行かせることがすべてではない。

やりたいことがあれば、なんだつてやらせてみる。

生きている意味、生きている実感を子ども自身が得て、笑顔を取り戻すために――。

世の中を見ると、みんなが立派な母親、立派な父親を演じています。しかし本当は、母親業も父親業も人生で初めての経験なのです。どうやって子どもを育てるのかなんて学校で教えられていませんし、自分が育てられた経験のみで親を演じているだけのことです。例えば、「義務教育期間には学校に行く」。それが常識だと。

私も常識に頭を支配されていたので、最初のうちは、どうやったら子どもたちが学校に行ってくれるのか、そればかり考えて悩んでいました。

でも、この考えを捨てたとき、その先にはわくわくするような未来が待っていました。今は、昔と違い個性を認めてくれる世の中になりつつあります。いわゆる「出る杭は打たれる」時代は終焉しゆうえんを迎えています。AIがこれまでの人間の仕事をするような時代に入り、ロボットにはできない能力を持つ（個性ある）人間が認められ、生き残れる世の中になりつつあるのです。

これからお話しする私たち家族の経験は、新しい世の中における、新しい形（自分らしい